

第三話

<あらすじ>

アーディティヤに接収されてしまった P C たち。無理やり戦力を集めようとするアーディティヤのやり方には疑問を感じていた…が思ったよりアーディティヤの人たちはいい人たちだった。「神」を名乗るクロト率いるガリスディアの襲撃を受けるアーディティヤの空母を、オズワルドの協力を得て撃退する。戦いの後、地球を守るという志を互いに認め合い、P C たちはルミナスの本拠地があるイヅモに向かって発つのだった。

<感想>

アーディティヤ、隙あらば「修正してやる！」って殴ってやろうかと頭をよぎったが、意外といい人だったなあ…。勲章効果でチェインアタック強し。想定通りチェインアタックが3回乗るコンボが炸裂した！まあ、神が残機制だったのでオーバキルだった感じもしなくはないが。

第四話もそうですがカバーリングに弱いなあスイーパー。リジットクライシスあればカバー不可にできるけど、クリティカル前提なので厳しいところ。

<マテリアル：3>

第3話での他の P C、N P C、組織に対するフィルの関係。

音戸ツルギ…ガリスディアの脅威を伝えてくれたことには感謝する。故郷を奪われるという辛さはとてもわかる。だが、地球人に対しても偏見持ち過ぎじゃないか？

橘サクヤ…彼女もラーフ帝国の被害者だ。彼女のような存在を生み出さないためにも、僕は戦う。

シャトー・ヒルフォード…現在の上司。レムリアのことについてはよく分からないが、優れた指揮官であることは間違いない。これからは頼りにすることだろう。

雪風ミライ…この年でここまでしっかりしている…これが S A K I M O R I というやつなのか。だが、少し危なっかしそうで心配だ（ブーメラン）。

ラーフ帝国…故郷トゥーレを侵略する忌むべき敵。絶対倒す。

フォーチュン…トゥーレとイヅモの両方を守るという僕の目的に合っている組織だ。

ルミナス…こんな組織があったとは知らなかった。彼らの手がなければ、ガリスディアに対抗できなかっただろう。それにしてもこの装備（R B）はなぜ…？

ガリスディア…故郷だけでなく、地球を侵略しようとする忌むべき敵。（のはずだったが…）

アーディティヤ…手段を問わない組織のやり方には少々嫌気が差していたが、意外と話が分かる人たちでよかった。

第四話

<あらすじ>

イズモのルミナス本部に辿り着いたP Cたち。しかし、待ち受けていたのは、星帝ナーサリウスの降伏勧告と、叢雲市を狙う巨大要塞だった。P Cたちはルミナス総帥の激励を受け、富士山麓のラクシャトー八に向かう。

無数の敵機と対艦兵器に阻まれ、苦戦を強いられながらも、フォーチュン鳳市司令チトセや、フィルの昔からの友人であるラックの援護を受け、最深部の動力炉に到達する。そこで待ち受けていたのは、尋常でない覚悟を決めて立ち上がったシャルレだった。激戦の末シャルレを退け、要塞を制圧するも、シャルレは自分がトゥーレ人であること、ツルギの許嫁でありガリスディアの王女であるエリア姫がトゥーレ王家の血を継いでいると明かし、去っていくのだった。

<感想>

敵多スギ！まあ、戦艦ばかり狙われたから出番あまりなかったけど。

そして今明かされる衝撃の真実！というか完全に内ゲバじゃないか！

とはいえめっちゃくちゃ面白い状況なのでP Cは目いっぱい苦しみたいと思います。

<要望>

イズモはすぐ離れてしまうのでしょうか？その前に母親や父親と話がしたい。（状況が状況だけに）

<マテリアル：4>

ガリスディアの姫君、エリア姫にはトゥーレの血が流れている…。フィルにとってはあまりにもショックだった。トゥーレを守るいいながら、同じトゥーレの民に刃を向けていたのだから。向こうから攻めてくるのだから、こちらは迎え撃つのみ、それはわかっている。だが、それだけでいいのだろうか…。

それに、トゥーレ本土から援軍に来たラック、そしてトゥーレ本土にいる父さんはこのことを知っていたのだろうか？もし僕がそれを知っていれば、シャルレとも話ができたかもしれないのに…！

※ここからは思いついた設定です　なんかそぐわないところがあればツッコミ入れてください

フィルの母、小宮マヤはガリスディア人であり、エリア姫の侍女として仕えていた。姫とともにトゥーレに来たのち、トゥーレ王家の将軍であった父グラドルと結婚する。エリア姫が行方不明になったあとは、イズモ人を名乗っていた。フィル自身もエリア姫と幼いころ出会ったことがあるようだが、フィルはそれをよく覚えていない。現在の居場所は不明。以前もあまりイズモにいないことが多かった。